

争の爆光を聞き取ろう

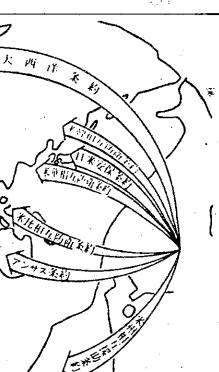
安保粉碎は日本革命の根本問題

一面からつづく

米帝国主義は八一年、その最右翼レーガンを誕生せしめ、この危機脱出の突破口を再び三たび戦争政策の中に求めたのである。それは、ソ連帝に対する決定的な軍事的優位を再び築きあげ、(大々的な核武装の強化とそれの先制的使用による脅威で)ソ連帝を封じこめ、他方民族解放闘争を個別撃破せんとするものである。これは、この間の米帝のリビア、朝鮮、キューバへの軍事挑発やニカラグア、エルサルバドルへの軍事介入として実行に移されている。

他方、西側帝国主義は米帝を除いてソ連帝の軍事力とは数段の差があり、一国での対決

に依存することぬきに帝国主義的権益を防衛するため米帝国主義のヘゴモニーのもと、政治的・軍事的結束を強めていかざるを得ないのである。当然、同盟諸国は米帝との帝国主義間矛盾を一方では深めつつも、より大きな利益の防衛のため帝國主義に支払うことになる。こうして米



【表①】アジア、太平洋、欧洲へ広がる米帝国主義の軍事的支配

帝は日帝に対し、貿易上の譲歩と米軍需要を要求しているのである。

この日本帝國主義と米帝の大経済圏とな

つて公的対外債務残高が二百億ドルにも達し、すでに破産状況となっている。

この日本帝國主義と米帝の大経済圏とな

つて公的対外債務残高が二百億ドルにも

達し、すでに破産状況となっている。

この日本帝國主義と米帝の大経済圏とな

つて公的対外債務残高が二百億ドルにも

行政改革理念と国鉄分割・民営化のねらい

行政改革と労働運動連載

①

行政改革のための臨時行政調査会は、今年七月の基本答申に向けて、現在、第一（行政の果すべき役割と重要施策のあり方）、第二（行政組織、

第三（国と地方の機能分担、保

護助成・規則監督行政のあり方）、第四（三公社五現業、特

殊法人のあり方）の四部会で

ある。行革粉碎闘争の前進た

めに、今号から第二臨調一

行の動きをおい、批判を行つ

ていく。

まず、特に注意すべき第一

と第四の両部会報告の特徴と

そのねらいを見ていこう。

民的、国家的目標」と位置付

けようとしている。昨年七月

の第一次答申では①、②の二

点であったが、①の「福祉社

会」の看板が消えて「成熟社

会」と表現され、福祉の考え

は新しい③に吸収され、しか

る。この「国家の安全」の思想は、

「米ソの軍事力バランスが変

化した情勢の中で「国際的

政治経済秩序を維持するた

め「米国をはじめとする西側

諸国とも協調し」わが国独自

の基本的防衛力を整備する」

となっている。

その上で「重要施策」につい

ては外交、経済協力、防衛が

「総合安全保障」として、一括

して位置付けられようとして

いる。

この「国家の安全」の思想は、

「米ソの軍事力バランスが変

化した情勢の中で「国際的

政治経済秩序を維持するた

め「米国をはじめとする西側

諸国とも協調し」わが国独自

の基本的防衛力を整備する」

となっている。

この「国家の安全」の思想は、